

予報期間 12月4日から12月10日まで

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 6日は、高気圧が日本の東へ移動するが、気圧の尾根が東日本から西日本付近へのびる。
- 7日は、気圧の谷が北日本を通過する。高気圧が日本の南へ移動する。
- 8日は、低気圧が発達しながらオホーツク海へ進み、9日にかけて日本付近は冬型の気圧配置となる。
- 10日は、高気圧が朝鮮半島付近へ移動して、冬型の気圧配置は西から緩む。

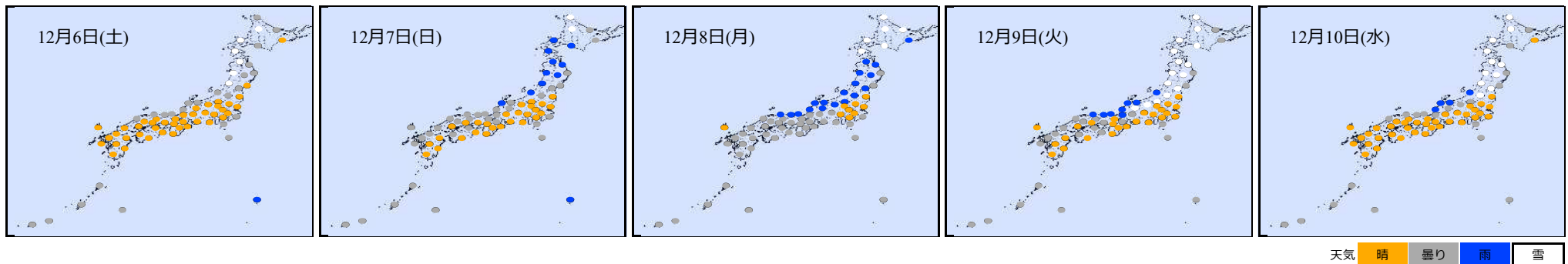
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

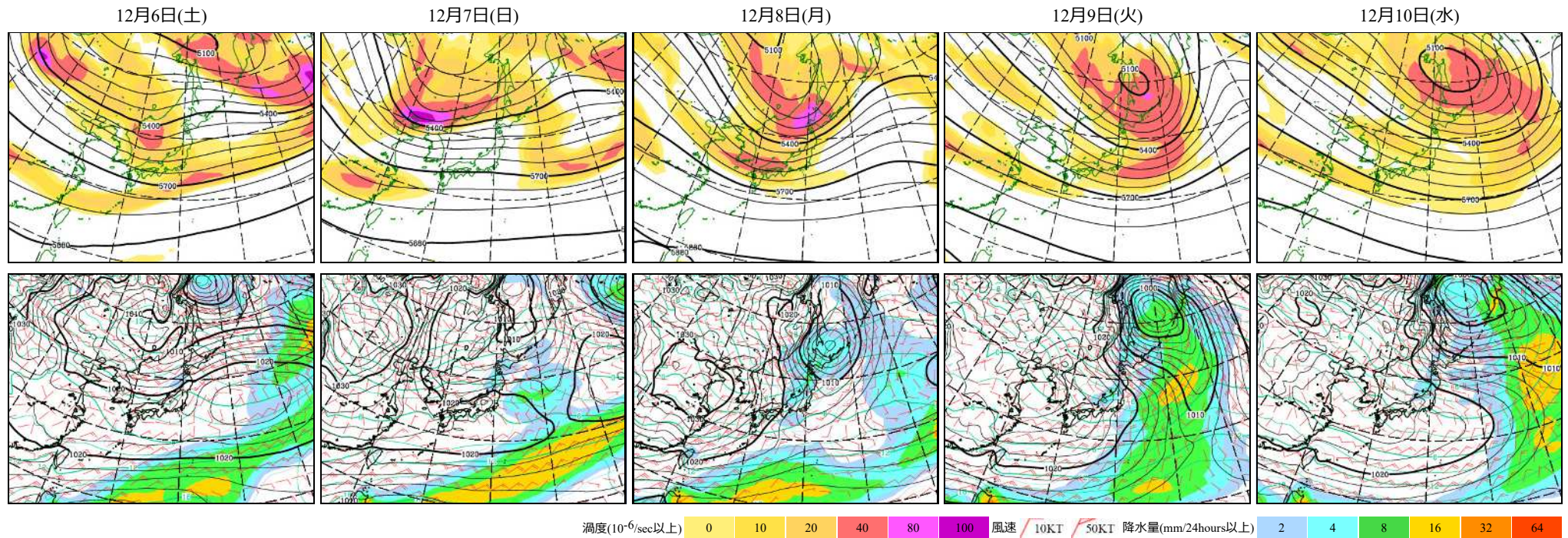
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

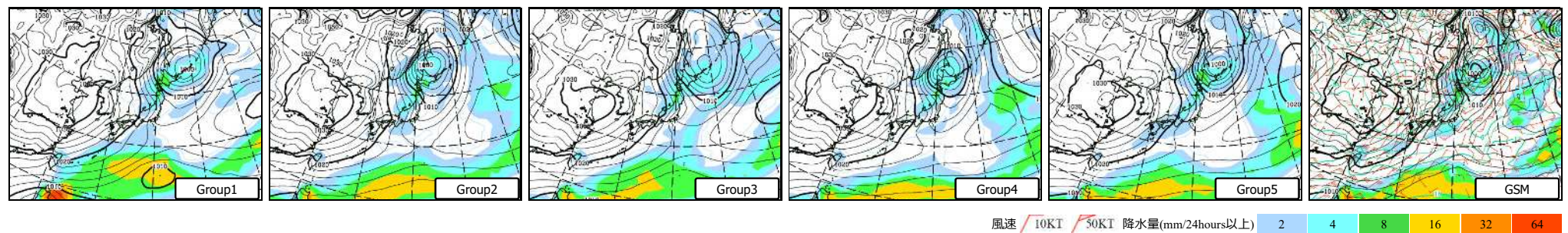


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、晴れまたは曇りの日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆12月8日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、8日から9日は日本付近のトラフが深くなり、寒気の南下が強まったことに対応して、日本海側の降水確率が大きくなった。
- 総観場の流れは、各モデルでおおむね揃っている。
- スプレッドは比較的小さいが、期間の終わりは、日本の東のトラフの深さについてばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。